誰にとっての「騒音」？

住む視点から「多文化共生」を考える

誰にとっての「騒音」？
住む視点から「多文化共生」を考える

- **キーワード**

多文化共生・文化創造・身近な異文化理解・立場の違い

- **対象**

小学生・中学生

- **活用できる教科**

総合的な学習（探究）の時間、道徳、外国語（活動）など

- **ねらい**

☆立場や文化の異なるどうしでの合意形成を成功させるために…

① 異文化との接触を通して自己が向ける他者への態度・偏見を客観的にとらえる。

② 多文化共生のための想像力を身につける。

誰にとっての「騒音」？
住む視点から「多文化共生」を考える

過程・時間	学習活動
導入 （10分）	1. 暮らしの中の「騒音」問題を紹介する。
展開 （35分）	1. 騒音と捉えている立場と、単なる「音」として発信している立場の両者を自己のエピソードを共有する。 2. マイノリティだと感じた瞬間やその時の気持ちを自己のエピソードベースで共有する。 3. 以上を踏まえて、最初の事例をもう一度考える。
まとめ （5分）	1. 振り返り 2. 自分の変化や学び、気づきを文字に書き起こす。

誰にとっての「騒音」？

住む視点から「多文化共生」を考える

【教材】

ワーク

自分が「騒音」だと感じた体験を友達と共有しよう！

- 家でテレビを見ているときに外で走るバイクの音
- 勉強中外から聞こえる工事の音
- 散歩中、車の中から聞こえる音楽
- 寝ているときに聞こえてくる話し声
-
-
-
-
-

ワーク

自分が「騒音だ」「うるさいな」と感じた体験を共有しよう！

キーワード：「いつ」「どこで」「誰が」「何が」うるさかった？

そして、「なんで」うるさく感じたのかな？さらに、他の人と共有も。

自分の「騒音」体験

（　　）の「騒音」体験

（　　）の「騒音」体験

（　　）の「騒音」体験

運動会前は挨拶回り “子供の騒音”で苦情がくる学校の現状

学校から漏れる音が「騒音」となっている。例えば、音楽の楽器演奏にはクレームがつく。45分間隔で鳴るチャイムは近隣住民にとって地獄の鐘で、体育館に近い住民だと、部活の練習の声や学芸会の練習も「騒音」だそうだ。

参考：日刊ゲンダイ「運動会前は挨拶回り “子供の騒音”で苦情がくる学校の現状」

中学の部活「生徒の声出しうるさい」
住民の苦情に運動部は無言で練習

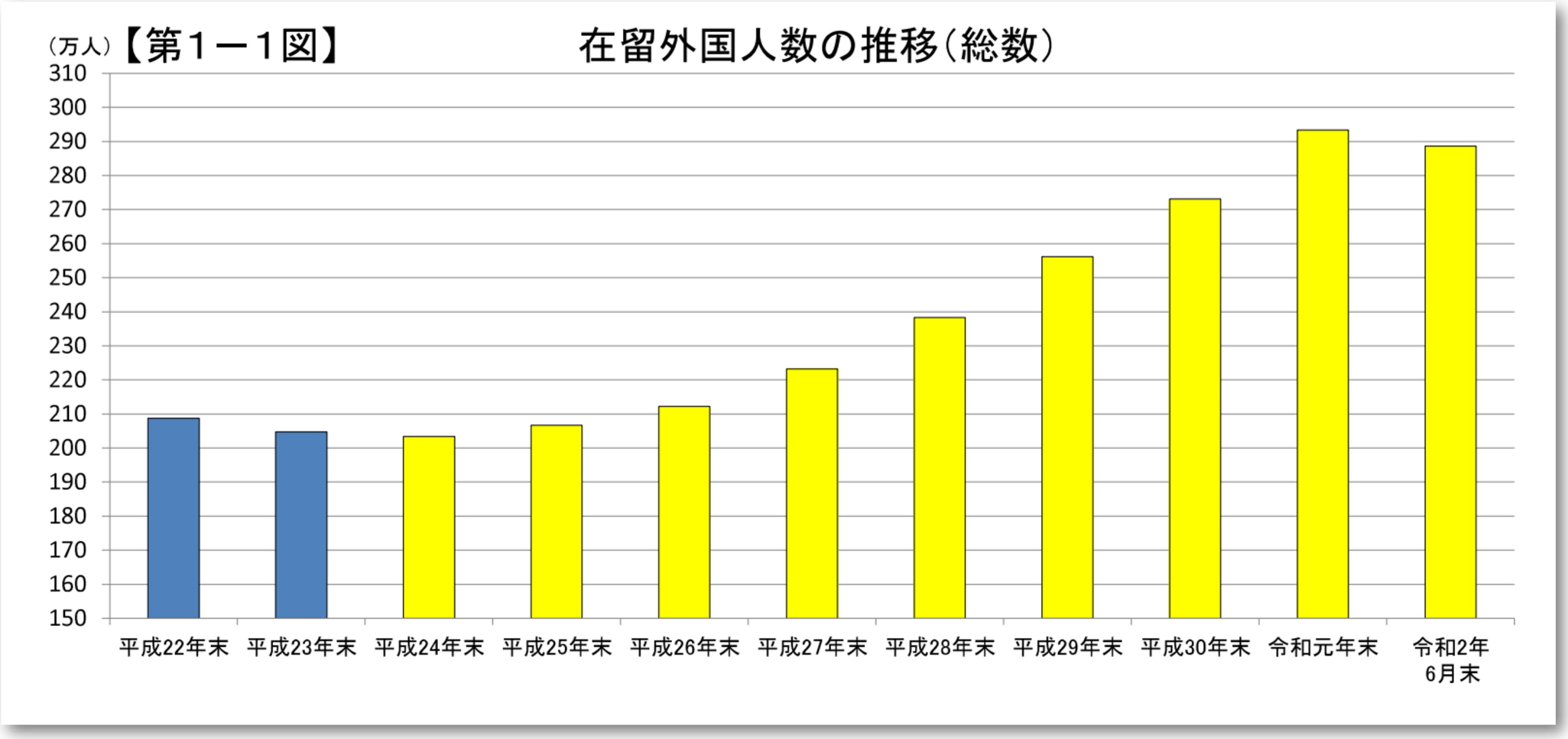
部活の音が騒音となって、近隣住民の苦情が寄せられている学校がある。例えば、運動部の掛け声や、吹奏楽部の楽器の音である。実際に、**苦情を受けて、部活の声出しが禁止されたり、朝練がなくなったりする**学校もみられる。

愛媛県松山市の中学校は近隣から「野球部の声やボールを打つ音がうるさい」と苦情が寄せられたのを機に、住民と市が話し合いをした結果、野球部は声を出すのをやめて黙って練習するようにしたという。

参考：JCA芝園Tニュース「中学の部活「生徒の声出しうるさい」 住民の苦情に運動部は無言で練習」

こういう衝突は日本人同士だけ？

在留外国人の増加



出典：出入在留管理庁「令和2年6月末現在における在留外国人数について」

異文化間の衝突事例

- **食事文化**

  食事後の支払い方法について、文化の違いがある。例えば、日本の割り勘文化は、互いに貸し借りをつくらずその都度清算する。おごる・おごられるで今後の人間関係に影響が出ないように公平に支払う。中国の奢り文化は、あえて貸し借りをつくることで「また次会う」機会をつくり出して、互いの人間関係を深めていく。人間関係に対する考え方の違いが、食事文化に表れている。（スライド11参照）

- **温泉文化**

  「裸の付き合い」という言葉があるほど、裸で温泉に入ることで心身ともに解放されてリラックスできるのが、日本の温泉への考え方でもある。一方で、大勢の他人とともに裸になるのは、慣れない外国人にとってはかなり抵抗があるよう。海外の温泉では、ほとんどが水着着用となっており、「水着で入れる銭湯を増やしてほしい」という要望もあるのだとか。（スライド12参照）

- **お土産・贈り物文化**

  日本と中国ではそれぞれプレゼントとしてタブー視されるものがあるため、注意しないと相手が不愉快になる可能性が高い。また、受け取ったプレゼントをどういうタイミングで開けるのか、日中がそれぞれ違っていることも。（スライド13参照）

出典：周勝男、日中異文化間コミュニケーションのためのカリキュラム・教材開発－異文化間誤解・摩擦事例を活用して－

参考

食事文化の異文化衝突事例

中国に留学していたころ、普段の何気ない食事でも、友達同士で割り勘したことはありませんでした。留学当初、知り合ったばかりの中国人の友人と食事にいったとき、「もう友達なんだから、他人行儀にならなくていいよ」と言ってごちそうしてくれました。**このとき、割り勘しない文化を知ったのですが、私は嬉しい気持ちもありつつ、友達だからこそ平等に割り勘するべきでは？とも思いました。**

私は、日本だと親しい友人同士でも常にきっちり割り勘していたタイプです。そんなケチな私にとって、中国の友人が当然のように食事代おごってくれることは、とんでもなく衝撃的な出来事でした。

しかし、慣れてくると、そんな細かいお金の計算は気にならなくなるものです。むしろ、自分がおごってもらう時は嬉しいし、相手におごってあげる時は気持ちがいいので、お互いハッピーな気分になれるステキな習慣だと思います。

中国には、食事代を互いに出し合うことでよい人間関係を保つ伝統的な文化があります。どちらかが食事をごちそうすることが次も会う約束になる、という発想なのです。複数人のグループで食事をするときも誰か一人が代表して全員分を支払います。食事をするたびにグループ内で順番に支払えばみんな平等、という考え方です。

参考：お金借りるトリセツ「人情を大切にする中国人が食事を割り勘しない理由」

参考

お風呂文化の異文化衝突事例

日本にやってきた外国人は広々とした銭湯や温泉を利用する人が多くいます。しかしルールが分かっていても、いざ温泉や銭湯に入ると文化的な戸惑いを感じてしまう人も。**海外の温泉では、ほとんどが水着着用となっており、外国人は他人に裸を見られることに抵抗があるのです。**「水着で入れる銭湯を増やしてほしい」という要望もあるのだとか。

また、そもそもお風呂文化に関して、日本には、江戸時代から銭湯を楽しむ文化があり、お風呂に対する思いは海外と比べてとりわけ強いようです。私たち日本人にとってお風呂は体を清潔にするだけでなく、**疲れをとる・リラックスするために欠かせないもの**です。

一方**外国では、お風呂は「体の汚れを取って清潔にすること」ができれば十分と考えていることが多い**ようです。シャワーで済まされることも多く、湯船に浸かる習慣がありません。そして、シャワーは起床後にするのが一般的です。

参考：LIVE JAPAN「知らない人と…外国人が日本の温泉文化にショックを受けた理由」

参考

お土産・贈り物文化の異文化衝突事例

「つまらないものですが……」「実家から果物がたくさん届いて、食べきれないのでどうぞ」日本人は人に何かをあげるとき、どこまでもへりくだることが多いが、**中国は反対で、「あなたのために、わざわざ準備した」感を出す**のが正解とされるそうです。

例えば、日本なら「実家でとれたリンゴ」というところを、中国では「リンゴの名産地で取れた最高級の品種」と講釈することで、相手をいかに大切に思っているか強調するのです。**もし中国人に、「食べきれないからどうぞ」と言うと、「いらない物をくれた＝見下されている」と解釈されるリスクがあります。**

手土産は気持ちだが、「気持ち」の解釈は日中で異なります。「物が何であれ、それに込められた気持ち」を重視する日本人に対し、中国人の場合は、物の金額で気持ちを量ることが少なくないです。

また、もらった側が開けるタイミングについても、中国人は目の前で開けてその場でお礼を、日本人は後で開けて後日改めてお礼を言うか、あるいはその場で開ける場合「開けてもいい？」と一言入れるのが礼儀だったりします。

参考：中国マーケティングラボ「金額＝気持ち　日本と全く違う中国のプレゼント文化【中国マーケット点描】」

異文化衝突事例のひとつ、

芝園団地における「騒音問題」について

当事者になって考えよう。

芝園団地について

- 所在：埼玉県
- 芝園団地の住民は約5000人。そのうち、外国人約2500人の大半が中国人。
- 飲食店も食料品店も八百屋も今ではほとんどが中国人経営。
- 八百屋の店頭にも「芋头148円」「新到紅豆550円」「今日香菜特价」など、簡体字が並ぶ。

出典：朝日新聞Globe「芝園団地に住んでいます　記者が住民として見た、『静かな分断』と共生」

芝園団地での「騒音」問題

状況：

　団地には広場があって、子ども達はボールを使ったり鬼ごっこをしたりして、元気に遊んでいる。問題は、それが夜になっても続くこと。

　日本は一般的に、「日が暮れたら子どもは家に帰る」のが伝統的な習慣である。一方で、中国人には、夕食を済ませてから夜の公園や広場で遊ぶ習慣がある。芝園団地の広場でも、お話する大人たちや遊びまわる子ども達を、夏は夜9時過ぎまで見かけることもある。特に広場に面している棟では声が響き、「子どもの声が夜遅くまでうるさい」という苦情がある。

　ただ、「日が暮れたら子どもは帰る」というのは、日本の習慣であって、法律ではない。したがって、中国人が夜の広場で過ごすのも彼らの習慣であって、日本の法律に反するようなことはしていない。

出典：大島隆『芝園団地に住んでいます』明石書店（2019）

ワーク

あなたが芝園団地に住む住人だったらどう思う？

なぜそう思う？

誰にとっての「騒音」？

そして、それがなぜ「騒音」になってしまうの？

ワーク

なぜ日本人は、夜の外から聞こえる声が「騒音」だと感じるのだろう？

- 文化の違い：一般的に遊んだ後に夜ご飯を食べる日本とは違い、一般的に中国は夕食の時間が早く、食事後夜は人々が街に出て、おしゃべりを楽しんだり、子ども達は遊んだりする文化・習慣ある。
- 言語の違い： 中国語の発音は全てに抑揚があり、その強弱で意味が変わるので、大きな声で話さないと伝わらない。中国語は、1つの言葉でも4種類のイントネーションがある。つまり、そのイントネーションの違いによって意味が全く異なる。例えば、中国語で『ma』と発音する言葉は、イントネーションの違いで『お母さん』『馬』『叱る、ののしる』『～ですか？』などがある。
- 外国語ってうるさく聞こえる？内容がわからないから？
-
-
-

参考：大島隆『芝園団地に住んでいます』明石書店（2019）

ワーク

あなたが芝園団地に住む住人だったらどう思う？
もう一度考えてみよう

状況：

外国人と日本人が共に暮らすこの団地で起きた問題が、夜の「騒音」問題。中国には、夕食を済ませた後、夜は人々が街に出て、子どもを遊ばせつつ、大人も互いに情報交換をする習慣がある。

発展

あなたが芝園団地に住む住人だったらどう思う？
解決策を考えてみよう

状況：

外国人と日本人が共に暮らすこの団地で起きた問題が、夜の「騒音」問題。中国には、夕食を済ませた後、夜は人々が街に出て、子どもを遊ばせつつ、大人も互いに情報交換をする習慣がある。

【発展】あなたが芝園団地の自治会員だったらどうする？
その理由も含め、グループで話し合って決めよう！

発展

芝園団地自治会の取り組み事例紹介
「日本人と外国人の出会い場づくり」

生活トラブルの原因：外国人と日本人との「共通点」がかなり少ないこと。生活習慣や言葉、文化、世代などが異なるため、コミュニケーションをとるのが難しく、見知らぬ者同士で不満をもっている。

↓

日本人と外国人の出会い場づくり：「かけはしプロジェクト」（仮名）

学生が主体となって、外国人と日本人との人間関係を築いていくプロジェクト。この中心的な活動は、「多文化交流クラブ」である。この活動の肝は、**外国人と日本人が、イベントの企画段階から一緒に話をしたり作業をしたり考えたりする過程で人間関係が築かれていく、「プロセスからの交流」**である。第1回目の「多文化交流クラブ」では、日本人と外国人が地域イベントの内容を意見交換した。翌月には「持ち寄りの食事会」を開催。他にも、「中国人住民が先生の中国語教室」、「折り紙と切り紙による秋の工作イベント」などが開催され、顔見知りが少しずつ増えていった。その翌年には、外国人住民が、団地の自治会役員に就任するなど、両者に変化がみられた。

参考：岡崎広樹（2021）「隣近所の多文化共生」の課題―芝園団地の実態と実践から―」

振り返り
自分の考え方への変化、学び、気づき